

ひとまち暮らしを守る 施策の実現をめざして!



【放課後児童対策の充実を】

●「練馬区子ども・子育て支援事業計画」に基づく重点

取組みのひとつ「ねりっこクラブ」事業の内容を精査すれば、小学の放課後が、より安全・安心で、充実したものになると考えます。

- ◇多様化する家庭と子どもへの対応を
学童クラブ、ひろば、各種開放という3つの事業の違いを明確にし、各家庭と子どもに、もっとも合う事業が選択できるようにすべきです。
- ◇提供される事業の質の確保と維持を
「ねりっこクラブ」は民間事業者への委託事業です。仕様書に基づいた運営はもちろんですが、子どもが学校でも家庭でもない時間を多く過ごす場としての質の確保と維持が求められます。



【健康寿命をのばして、元気な毎日を】

日常生活に制限なく、健康的に生活できる期間を「健康寿命」といいます。

- ◇4つのキーワードで元気な日々を
「テクテク」「カミカミ」「ニコニコ」「ドキドキ」が健康寿命をのばすキーワード。歩く、噛む、笑う、そしてチャレンジする心を忘れずに。
- ◇すべての世代にチャンス
今の60歳代以上の人たちは、実年齢の8掛け、つまり70歳のひとならば56歳くらいの体力や能力を有しているとも言われます。年齢によって活動を制限するのではなくその人の状況に合わせ様々なチャンスを用意できる施策が必要です。



練馬区議会議員 第五十九代議長 副幹事長
関口 かずお

議会運営委員会 委員

常任委員会 企画総務委員会 委員長

特別委員会 総合・災害対策等特別委員会 委員

各種委員会 民生委員推薦会、土地開発公社評議員会

ご相談は… **関口かずお 事務所**

〒176-0021 練馬区貫井 3-53-8

Tel / Fax : 3998-1752 HP : <http://www.k-sekiguchi.jp/>

人生の本舞台を追い続けて

今年ラグビーW杯日本大会、そして来年は、東京オリンピック・パラリンピックと、大きなスポーツイベントが、身近で開催される。四年に一度の戦いの場、その日に向けて日々練習や試合に臨む選手たちの姿に、その場に臨む重圧を、一瞬のために積み重ねる努力と時間をおもうと同時に、ある政治家の言葉をおもいだした。

その政治家とは、明治二十三年の第一回総選挙から連続二十五回当選、昭和二十八年まで六十二年間衆議院議員を務め、「議会政治の父」「憲政の神様」と呼ばれた、尾崎行雄(号堂)である。彼がそう呼ばれたのは、議会政治の黎明期から、依然残っている藩閥や軍部など、議会をないがしろにする勢力と対決してきたからだという。

昭和の初め、尾崎は盟友である犬養毅を、5・15事件で失い、療養中だった夫人も亡くす。自らも病床に伏して、打ちひしがれていた時、天啓のように、ある言葉が頭に浮かんだという。

「人生の本舞台は 常に将来に在り」

たとえ今、どんな苦境にあらうと、それを糧にし、前に進むこと。今、どれほど成功しているとおもえても

それに満足すれば、それ以上の成長はないこと。怪我や逆境にもがき苦しむ

その中であつても、自らを奮い立たせ結果を出すことに挑む選手たちの姿に

この言葉を、改めてかみしめる。

オリンピックやW杯と並べるのは

少々気が引けるけれども、四年に一度、戦いを迎えるのは、地方議員も同じである。

自分自身、信念を持って議員として生きてきたという自負がある。だが、時局や政局が、自分のおもわぬ方向に展開してしまうこともある。長く私を支えてくれた、志をともした、大切な人との別れもある。自分が

これまで大切にしてきた政治家としての「流儀」が、通用しない場面に遭遇することも多い。一体何を信じればよいのか、どうすればよいのかと、途方に暮れることもある。

そんな時、私はいつも、この尾崎の言葉をおもう。なぜなら彼が、人生の本舞台を将来に見据え、軍部の台頭に再び立ち向かう闘志を奮い立たせたその時は、今の私と同じ、七十年代半ばのことであったから。私なりの、区議会議員としての生き方で、前に、そして次に進むこと。私のこれからの目標である。

憲政記念館に掲げられる、九十四歳の尾崎がしたためた、「人生の本舞台」の書はまた、人生百年時代の、心の支えでも、あるのだ。

憲政記念館に掲げられる、九十四歳の尾崎がしたためた、「人生の本舞台」の書はまた、人生百年時代の、心の支えでも、あるのだ。

